

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001925		
法人名	特定非営利活動法人いきいきライフ協会		
事業所名	グループホーム いきいき服部西		
所在地	大阪府豊中市服部西町三丁目9番4号		
自己評価作成日	平成29年4月3日	評価結果市町村受理日	平成29年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊中市のモデル事業として平成15年に文化住宅を改修しオープンしました。各居室の壁は土壁で「昭和」を思い出し当時の暖かみが深いと本人・家族・ケアマネージャーにも好評頂いています。近隣には公園、市立体育館、小学校、商店街等が隣接し催しや行事にも地域の掲示板を見て参加させてもらっています。オープンから15年経過、地域に馴染むホームを目標に日々発信し努力しています。

2階建ての文化住宅の1階を改造して作られた事業所は、共用部分・居室とも全面フローリングが施され、居室の土壁・押入れとともに、利用者が生きてきた「昭和」の面影がある。利用者は全員女性で、職員もベテランの女性が多く、料理・洗濯・清掃など家事全般に亘って一緒に作り、リビングでもゲームや作品づくり等で楽しむなど、アットホームな雰囲気がある。「食」には特に力を入れており、職員全員で献立づくりと食材の買い出しを行い、四季の食材を取り入れ、調理専門員が調理し、提供時の温度に気を配り、味つけ・量もよい。利用者も準備・片付けに参加して楽しんでいる。ほとんど毎日、近くの公園への散歩や買い物等で職員と一緒に外出しており、他の時間に外に出たがる方はいない。毎月、8項目の一人ひとりの詳しい状況を、手書きで家族に報告しており、家族の安心と信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	より分かりやすい理念に変更した。全職員で実践し、共有に繋げている。	3年前に職員が話し合って制定した事業所独自の理念を、玄関・事務所に掲示し、「笑顔で優しく元気よく」を意識して実践している。家族の訪問時には玄関に掲示している理念を説明している。理念は5年ごとに見直すようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で顔なじみが出来ている。軒先で外気浴中近隣の方とお話するきっかけがある。	社協主催の地域ケア会議に積極的に参加している。散歩や買い物時に、近隣の方と挨拶を交わしている。近隣小学校での運動会・盆踊りに参加し、又、オカリナ・オートハープ等のボランティアの方が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	救命サポーターの看板を掲げている。法人主催の講演会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域住民に行事報告、サービス内容の報告を行い意見があり、サービスに活かしている。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・民生員・元民生委員・商店街会長・職員が会議に参加している。会議では、運営報告とともに専門家による勉強会も行い、議事録には質疑応答も記されている。また、法人の月刊便り「いきいきタイムス」にも会議のトピックスを掲載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給の方が数名在籍し、豊中市のケースワーカーが定期的な訪問が実施されている。また空き室状況を豊中市高齢課より聞き取りがあり状況報告している。	市の高齢介護課・生活福祉課とは、各種申請や空き室状況等の報告、相談・助言等を電話や訪問をして、協力関係を保っている。月1回2名の介護相談員の訪問を受けている。同地区内のグループホームとも、空き室状況等の情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時に研修を行っている。その後もミーティング中に確認するように理解を図っている。玄関の施錠に関しては法人より施錠指示があり家族に理解を得ている。	「高齢者虐待防止マニュアル」中に、身体拘束に関する事項を記載し、職員には入所時と年1回、身体拘束と虐待に関する研修を行っている。玄関には安全のため施錠しているが、毎日外出しているからか、出たがる人はほとんどいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に研修を行っている。お互いこい虐待が見過ごされていないか、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用している方がおり、司法書士の先生より学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回のお便りでホームでの様子を報告してる。家族、利用者から意見・要望をお伺いしている。	家族の訪問時やケアプラン説明時、日用備品を用意する時等に、意見・要望を伺っている。伺った意見・要望はケアマネジャーを中心に記録し、職員に周知している。連絡が疎遠な家族には、理事長や管理者が遠方の他県まで出かけて、話し合うこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、申し送りで職員に意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	月1回の職員ミーティングや、毎日の申し送りノートで意見・要望を把握し、全員が押印して共有している。利用者の個人ノートも全員が目を通して見ている。これらに基づくケアの仕方や業務分担等に関する改善や見直しは多く、実施に結びつけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の申請を行い、配分給付がある。年2回の賞与があり、夏季、冬季、有休の確保がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は職員が受けやすい時間に行っている。内容は事前に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人でセミナーを開催し、同業者等にも参加して頂く機会がある。地域ネットワーク会議に参加し、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事等を傾聴し、安心していただける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事等を傾聴し、気持ちを受けとめ支援していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時まず何が必要かを見極め、本人・家族が一番良い支援を提案出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として利用者から知恵を拝借し、共に支え合える様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの協力を得て共に支えていく関係づくりを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も知人の面会があり、関係が途切れない様支援に努めている。	センター方式のアセスメントシートや家族からの情報で、利用者の馴染みの関係を把握している。友人・知人や以前の施設の方等の訪問時の対応、年賀状の手伝い、電話の取次ぎ等、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しない様、職員が介入し、利用者同士が支え合う様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、日常生活にできるだけ不安のない様に対応している。	入所時のアセスメントシートや主治医からの情報提供、本人・家族から、暮らし方の希望・意向を把握している。利用者全員が意思表示できるので、その都度真摯に耳を傾け、できるだけ希望・意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を把握し、今までと同様の生活が維持出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を、申し送りや記録等で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングについては毎月実施し本人・家族に安心安全に生活維持、サービス提供の実施ができていないか、毎月職員とミーティング等で確認し家族へ報告し今後の希望・要望等行っている。	介護計画は本人・家族・主治医の希望・情報や、職員からの現状報告・提案を反映して、長期目標を6か月、短期目標を3か月として作成し、必要に応じて随時見直している。毎月の職員ミーティング・モニタリング・カンファレンスで職員と家族との関係強化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ノートは気づきや報告等を記入し、情報を共有し介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族が希望するサービスに出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園へは散歩や花見で出かけている。地域の行事等にも参加し、ボランティアの方に協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回往診があり緊急時には直接携帯に連絡を入れ指示を仰ぎ適切な医療提供があり職員にも安心がある。	利用者・家族の同意を得て、全員が協力医療機関の医師の往診を月2回受けている。歯科医の往診はなく、職員が毎日口腔ケアや入れ歯洗浄等を励行しており、必要があればその都度通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化で気になる事があった時は、まず医師・看護師に伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーの活用にて情報交換が出来る。入院中の状態を把握し往診医療機関との連絡がスムーズに取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方、医療との連携についての話し合い、取り決めを行っている。	前回の外部評価後、看取りマニュアルを作成し、職員に看取り研修を実施して意識づけした。利用者の入所時に「看取り介護指針」を説明し、意志アンケート実施して同意書を取っている。過去5人の看取りがあり、利用者・家族の安心と信頼を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で毎年、救急救命の訓練を行っている。AEDや心肺蘇生の方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を計画的に行い利用者、職員は避難方法を身につけている。地域住民と協力し避難訓練を行っています。	昨年度は7回(昼間想定5回・夜間想定2回)、管理者・一部職員・利用者が参加して、避難・消火・通報の自主訓練を実施した。災害時のマニュアル・連絡体制を整備し、備蓄品も用意している。しかし、消防計画書・報告書は年1回の提出で、消防署の立ち合いも実施されていない。	自主訓練に加えて、消防署の協力による年2回の消防訓練実施計画報告書に基づく通報・消火・避難訓練を行うと共に、近隣住民への協力・参加による更なる防災対策の充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊重している。また声かけにはプライバシーを損ねない様に心がけている。	「介護の基本心得」「言葉遣い・マナー」「あいさつ言葉の基本」等の職員研修を実施し、意識とスキルアップを図っている。トイレ・風呂は密室性・快適性を確保するよう工夫している。不適切な言動があれば、その都度注意し合って改善している。個人情報鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	休憩時間を決めてもらったり、着用する服を一緒に選んだりと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションに参加するかどうか、入浴するかしないか等、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて本人の好みの髪型にしている。好みの服装で季節に合う様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞きメニューと一緒に考え、旬の食材にて四季を感じてもらっている。食材切り、テーブル拭き、後片付け等も一緒に行っている。	職員全員で献立づくりと食材の買い出しを行い、調理専門員4人が交代で調理に当たっている。食事は四季の食材を取り入れ、提供時の温度に気を配り、味つけ・量もよい。利用者も様々な作業に参加して楽しんでいる。誕生日・歳時記等の行事食もあり、食前のメニュー説明・口腔体操、BGM等、様々な工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して栄養バランスを考えメニュー提供している。食事形態は個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時、毎食後にしている。必要な時は訪問歯科にて治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しプライバシーに配慮しトイレ誘導を実施している。	現在、オムツ使用は1名のみで、他の方は排泄パターンを把握して、2時間までの間隔でやや早めに誘導している。毎月、請求書とともに家族へ送る一人ひとりの詳しい状況報告の中で、排泄についてもお知らせしている。最近排泄状況が悪化した利用者はおられない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や水分を摂ったり毎日の運動で予防をしている。主治医には症状を伝え指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽でゆっくり会話を楽しんだり音楽を流したりして気分良く入浴出来るようにしている。浴室と脱衣所の温度差がないようにしている。	浴室は2方向介助ができる浴槽を設置し、広々としている。入浴は週2回を基本に、夏場はシャワー浴も加えて週3回行い、状況に応じて足浴・清拭も行っている。入浴嫌いな方には、時間をかけて促したり、日を改めたり、清拭したり、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩や運動により安眠への配慮を行っている。食後少し時間を置いて休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の間違いない様に、配薬者以外に三人で確認している。目的、副作用、用法を医師により伺い様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いがあるよう個別に役割を持って頂き楽しく生活出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により家族の面会時外食に出かけている。職員とは買物同行や散歩にて外出の機会を設けています。	利用者はほとんど毎日、近所の公園への散歩や買い物等で職員と一緒に外出している。家族とともに外食したり、一時帰宅する方もいる。大阪空港や農業公園、花見・初詣等で遠方に出かけることもあり、そこで弁当を楽しむなど、利用者の生活の充実をめざしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自力で管理出来る小遣い程度は管理してもらっている。購入希望があれば一緒に行き支払い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したい時取り次いでいる。またゆっくり話せる様に居室に誘導している。孫や子供との年賀状のやりとりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように穏やかな音楽が流れ、食事作りが始まると良い匂いに包まれている。不快な臭いがしないように空調や換気も配慮している。	床全面がフローリングしており、土壁とともに昭和の文化住宅の面影がある。リビング兼食堂には丸形2つ、長方形1つのテーブルを配し、憩いの場となっている。壁面には利用者手づくりの季節の折り紙装飾や塗り絵、色紙・風景画・行事写真等を飾り、静かなBGMが流れている。居心地がよく、昼間ずっとリビングで過ごす方も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりでしたい事があれば支援している。気の合った人同士で過ごす時は、工夫している。常に利用者が不安にならない様に見守っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく生活出来るよう、馴染みの物を持っていただいている。	居室にはベッド・エアコン・押入れ・カーテンを設置し、和風の土壁に囲まれ、床にはフローリングが施されて清潔に保たれている。テレビ・家具・衣装かけ・家族写真、自作の塗り絵・色紙等、自由に持ち込んだり飾ったりして、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に表札をつけ、安全に過ごせるように、環境整備をしている。		